

あいりん地域における 高齢者特別清掃事業の 役割と効果

特定非営利活動法人 釜ヶ崎支援機構
沖野 充彦

1、特掃事業の仕組み



府内・市内の公共用地・河川敷の除草作業



保育所や公共施設の補修・塗装作業





河川敷での除草・清掃



保育所で
塀の
ペンキ塗り



あいりん地域での道路清掃

- 94年から府市共同で実施。99年から本格実施。
- あいりん地域に拠点を置く55歳以上の日雇労働者で、生活保護を受給していない人。
- 建設労働では体力が続かない人でも働ける屋外軽作業（道路清掃や公園等の除草、保育所での塗装や補修作業）
- 現在登録者1486人。1日就労者数222人。
- 1日5700円。月4～5回、登録番号順に仕事に就ける。
- 平均年齢は64歳（55～59歳 20%、60～64歳 42%、65～69歳24%、70歳以上14%）

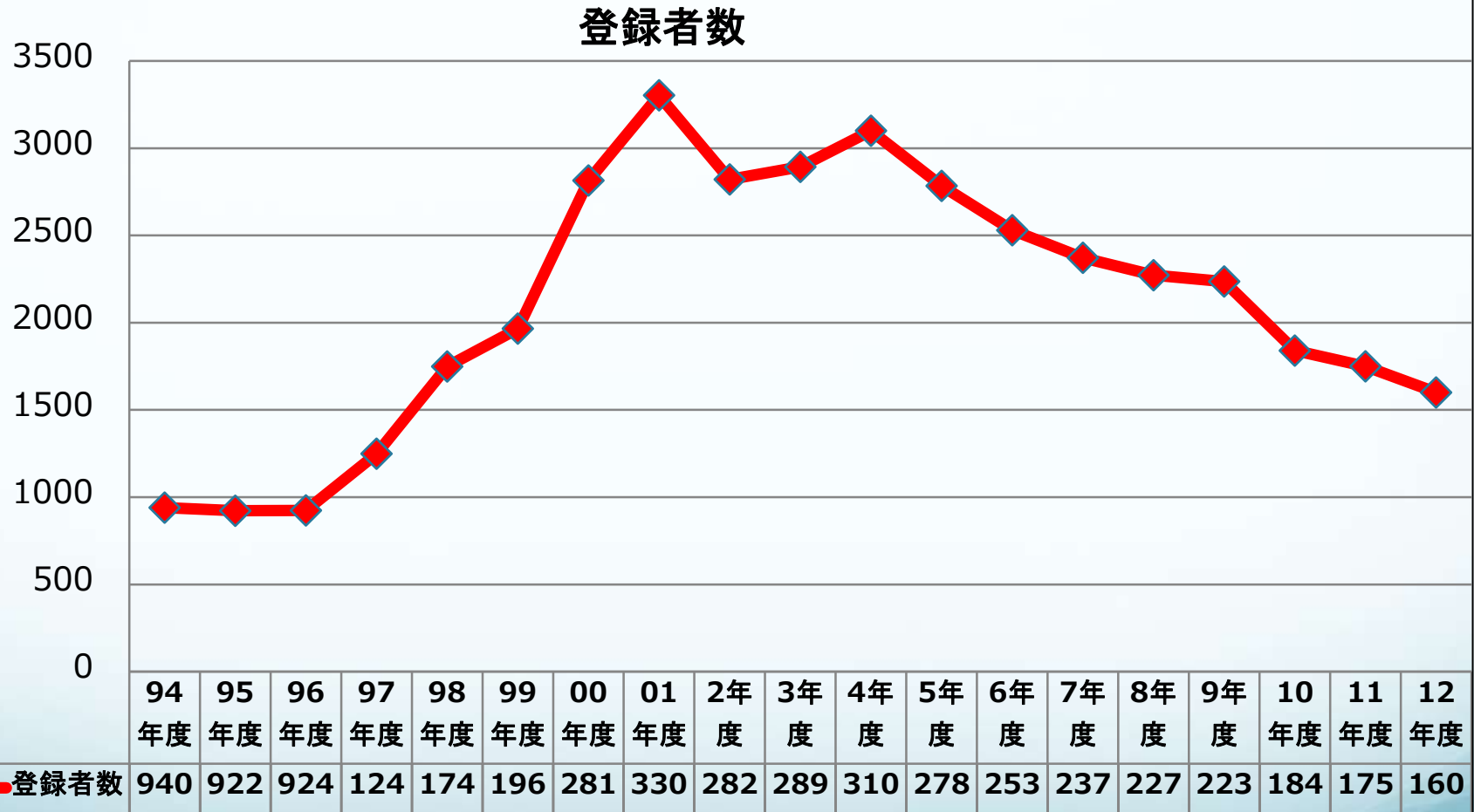
2、特掃事業成立の背景

- バブル経済の崩壊による建設末端労働力としての日雇労働者の大失業と生存要求

(90年1日1万人弱の求人→93年4千人強。
98年大阪市野宿者数8660人)

- 行政姿勢の転換(日雇労働市場を補完する民生対策から、失業労働者の就労生活保障対策へ)と
- 官民協働による問題の解決へ(NPO等民間団体との連携)

3、特掃事業の役割と効果



2010年特掃就労者調査（821人）から

特掃従事者のうち9割は、

「生活保護をいますぐ申請しない」と答えている。

その理由として、

- 仕事で得た収入で生活したい、
が約半数と最も割合が高かった。
- 次に、生活が制限される(22.4%)、
- 親・兄弟に連絡がいく(20.7%)、
- 年が若い(16.6%)、手続きが面倒(12.5%)、
- 年金などの収入がある(11.1%)となった。

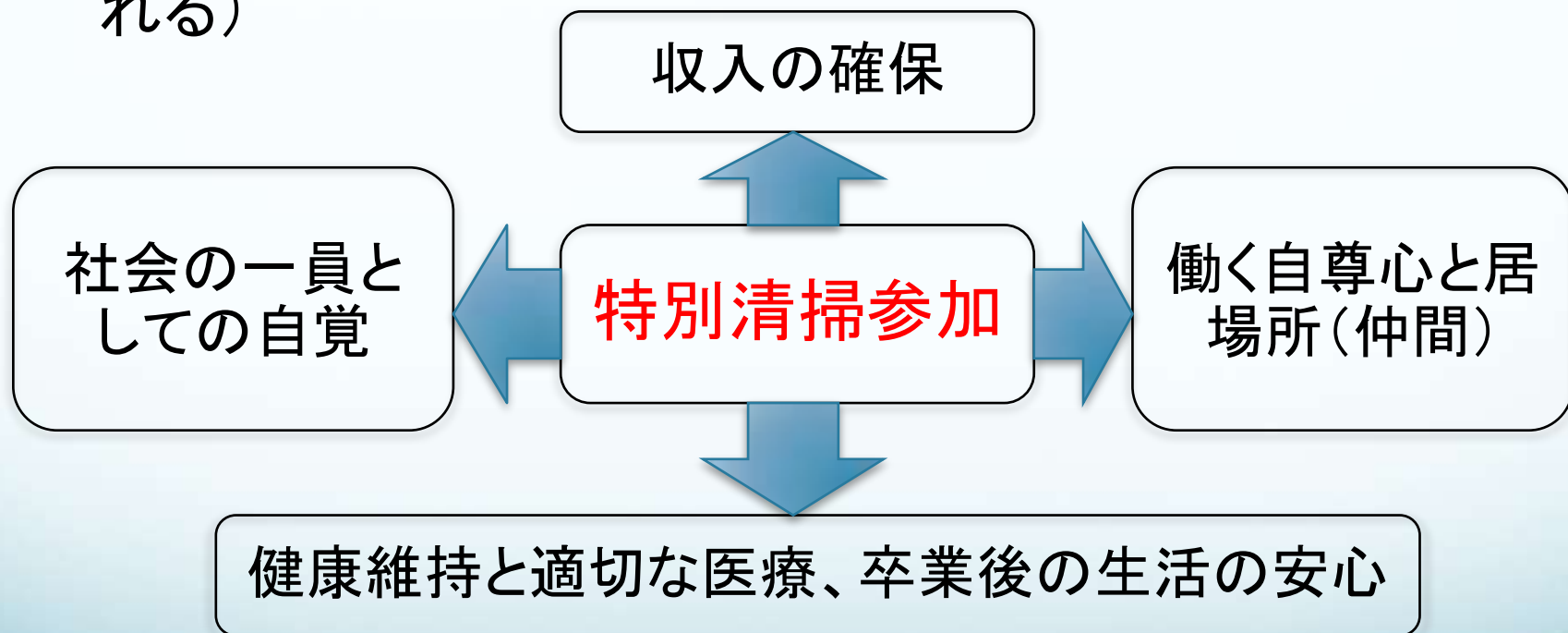
- 「野宿経験あり」 86.7%。1ヶ月以内では71.0%。
- 1ヶ月以内の簡宿利用者は40.2%。

〔労働者にとっての特掃の意味〕

収入を得られる	664	84.8%
就労意欲を継続できる	310	39.6%
社会参加感覚が持てる	229	29.2%
仲間と一緒に働ける	296	37.8%
健康を維持できる	359	45.8%
特にない	7	0.9%

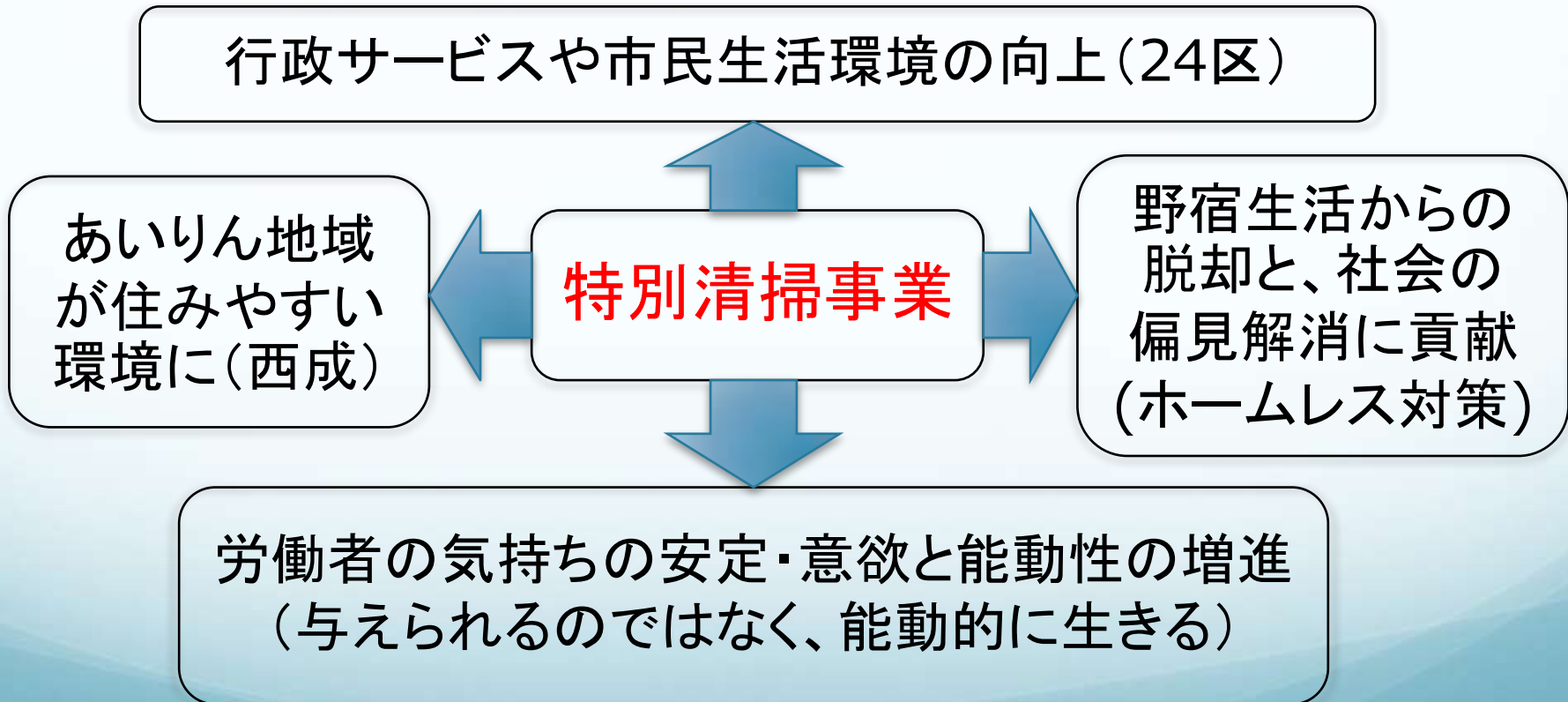
- 働く意欲・参加する意欲・生きる意欲の継続

- 特掃事業を取り巻くサポート（技能講習、常用就職支援、治療継続支援、特掃卒業後の生活支援）
- 済生会健康診断の効果（自分の生活状態を考える、適切な医療につながる、野宿からぬけ出すきっかけをつくれる）



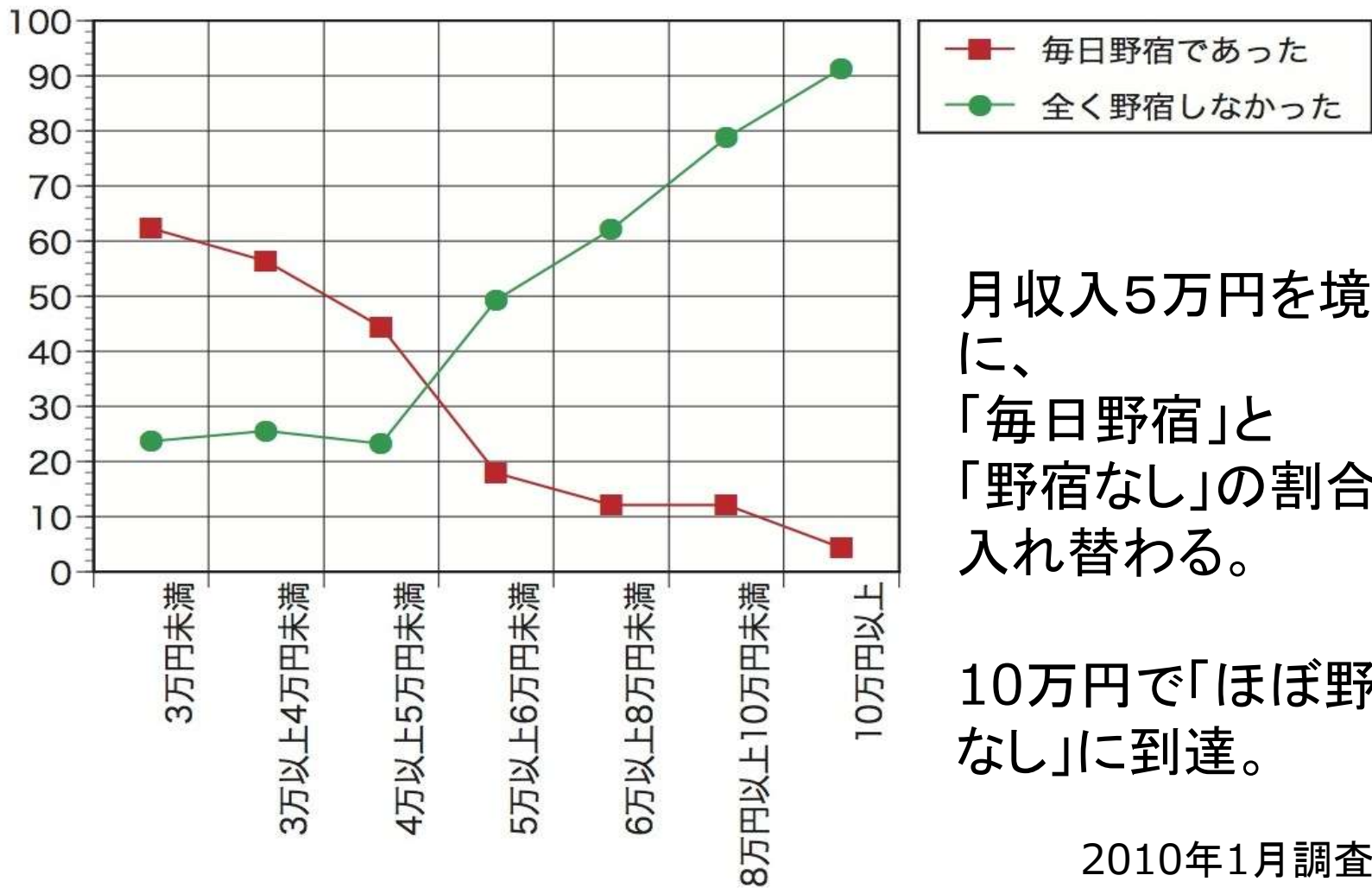
[社会にとっての特掃の意味]

- 地域の安定と労働者の気持ちの安定
- 大阪市の市民サービスへの貢献



4、特掃事業のこれから

野宿と収入の分岐点



月收入5万円を境に、「毎日野宿」と「野宿なし」の割合が入れ替わる。

10万円で「ほぼ野宿なし」に到達。

2010年1月調査から

- 労働者は公的対策にぶら下がっているのではない。

(2010年1月調査) アルミ缶収集 20.5%

日雇・パート従事 19.8%

その他、技能講習などに参加も

- 「仕事を提供するだけでなく、あたらしい仕事をつくりだす」
- 「みんなに同じメニューを提供するだけでなく、ひとりひとりの状態に応じて、就労・居住・日常生活・医療の複合的なサポートをおこなう」
- そうすれば「生活保護だけに頼らない総合的就労生活支援策」の柱にしていける。